

千秀だより

横浜市立千秀小学校

5月号

平成30年(2018)5月 2日



コミュニケーションを支える言葉について

校長 市川 幸男

5月の声を聞き、青空に映える新緑が目には鮮やかな季節となりました。保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと拝察致します。学校では、始業式、入学式以来、学級名発表、発育測定、各種健康診断…と、年度始めの行事を重ね、子どもたちに、それぞれの学年意識が高まってきたのではと感じています。ほんの一月前に会話した時には、「まだまだ子ども」と思っていた子が、6年となり、会話してみると、「こんな難しいことも考えられるようになったのだ。」と感心させられることもありました。子どもたちの成長は本当に素晴らしいと思います。どうか、家庭や地域でも、子どもたちの今までにない良さや頑張る姿を目にしたときには、大いに認め、励ましていただきたいと思います。よろしくお祈りします。

さて、5月は「全校遠足」「運動会」と子ども達が心待ちにしている行事を開催致します。この二つの行事に共通していることは、「子どもたちが工夫した活動が展開される。」ということです。全校遠足ではスマイル班(縦割り集団)が主体となって、見学のコースや班内での約束など、自分たちで決めて行動します。また、運動会では、アナウンスや応援など、それぞれのプロジェクトで話し合い、活動を進めていきます。こういった子どもたちが主体となって行動するとき必要となってくるのがコミュニケーション力です。

自分の思い・考えを、どのような言葉を使って、どのように表現し周囲の人に伝えいくのか。また、相手の考えをどう受け止め、自分はどう思うのか。そしてそれをどう発信していくか。といった相互の情報のやりとりや意思の交流を図る力は、これからの社会の中を生きる子どもたちにとって本当に必要な能力だと思います。千秀小学校でも、昨年度より重点課題として位置づけ、その育成を図る授業改善に取り組んでいます。1年を経て、タブレットなどのICT機器を使ったり、図・表等を活用したりして、自分なりの表現ができるようになってきました。今後も、この伸びてきた芽をさらに育ててまいりたいと存じます。その中で、少し気になるのが子どもたちの使う言葉です。自分の思いをどのような言葉を使って伝えていけば、的確に伝わっていくのか。それを実現することはとても難しいことです。私も「何が言いたいのか分からない」とか「今の言葉は言い過ぎではないか」とか、よく叱られます。その都度反省するのですが、なかなか自分のものとは成りません。でも、せっかく思いを伝えるなら、相手に気持ちよく伝わるようにもした方が良いでしょう。同様に、子どもたちも授業中は、吟味して発言しているのですが、休み時間や友達同士の会話などでは、時にきつい言葉や受け手を傷つけてしまう言葉が出てしまうこともあります。気持ちの良いコミュニケーションを体験するためにも、一つの言葉を出すとき、聞き手のことを意識できるように、児童も、職員も、そして私も、学校全体が取り組んでいきたいです。

最後に、谷川俊太郎さんの「一つの言葉」で締めくくらせていただきます。

一つの言葉でけんかして	一つの言葉で仲直り
一つの言葉で笑い合い	一つの言葉で泣かされる
一つの言葉はそれぞれに	一つの命をもっている
きれいな言葉はきれいな心	やさしい言葉は やさしい心
一つの言葉を大切に	一つの言葉を美しく